

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
龍馬情報ビジネス&フード専門学校		昭和61年1月28日	校長 中川 隆	〒 780-0056 (住所) 高知市 北本町 1-12-6 (電話) 088-825-0077																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人龍馬学園		平成1年3月23日	理事長 佐竹 新市	〒 780-0056 (住所) 高知市 北本町 1-12-6 (電話) 088-825-0077																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
商業実務	商業実務関係専門課程	セールスマネジメント・ブライダル学科	平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	接客業に必要な知識を学ぶと同時に、インターンシップ実習や販売実習などを体験し、顧客視点のサービスを考え実践できる即戦力の人材を育成する。将来は、アパレルスタッフ、営業、ホテル・ブライダル業など、様々な接客サービス業での即戦力となりうる人材を育成する。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ブライダルコーディネイト技能検定、リテールマーケティング検定、色彩検定、パーソナルカラー検定、サービス接客検定、全経簿記能力検定、手話検定 中退率8.1%																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	1,754 単位時間	711 単位時間	22 単位時間	1,021 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																											
		1,796 単位時間	328 単位時間	22 単位時間	1,446 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率																														
60人	36人	0人	0%	8%																														
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 19人</p> <p>■就職希望者数(D) : 18人</p> <p>■就職者数(E) : 18人</p> <p>■地元就職者数(F) : 9人</p> <p>■就職率(E/D) : 100%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 50%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 95%</p> <p>■進学者数 : 1人</p> <p>■その他</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) アパレル業、ホテル・ブライダル業、生活関連サービス業、宝飾販売</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 0</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL: _____</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.ryoma.ac.jp/kcc/course/salesbridal.html																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1754/1796 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>279/836 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0/0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1754/1796 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>279/836 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0/0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>105/105 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	1754/1796 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	279/836 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0/0 単位時間	うち必修授業時数	1754/1796 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	279/836 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0/0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	105/105 単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1754/1796 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	279/836 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0/0 単位時間																																	
うち必修授業時数	1754/1796 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	279/836 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0/0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	105/105 単位時間																																	
総単位数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																	
うち必修単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	4人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

セールスマネジメント・ブライダル学科では、時代に適応したサービス・接客能力のエキスパートを養成することを教育目的としており、企業関係団体及び商業関連企業の役職者等を教育課程編成委員会委員に選任し、業界の専門性の動向、新たなサービス・接客動向に関する知識・技術について、関係者からの意見等を十分に反映して、より実践的な授業科目、授業の内容・方法の改善を図っていく方針である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。

教育課程編成委員会での審議内容を学科で共有後、学科内でカリキュラム編成会議を行う。

カリキュラム編成会議の結果を、教務総括会にて報告し承認され採用される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
伊藤 武史	一般社団法人高知ウエディング協議会	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	①
安藤 博司	株式会社 高知大丸	令和6年7月1日～令和8年6月30日(2年)	③
中川 隆	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	-
西成 和広	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	-
鳴瀧 学志	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	-
岩松 美穂	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和6年7月1日～令和8年6月30日(2年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 7月、1月

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月27日 17:30～18:30

第2回 令和6年1月30日 17:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1年次後期に3名の退学者が出たことで退学者を出さないようにという声から、退学防止対策として日頃から学生一人一人の様子を観察し、少しでも変化があれば個人ガイダンスを頻繁に実施している。また、保護者にも適宜報告をしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

最近の技術動向を踏まえ、現場に必要な知識・技術を具体的に身に付けさせるため、企業へのヒアリング等を通じて重要項目や課題を抽出し、その結果にもとづいた解決・改善内容を実習や演習内容に反映できるよう企業と連携しながら計画を進める。また実習・演習等の実施後には企業及び学生からの報告を元に、その効果を検証しながら改善・改良を図る。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携先企業等の担当者と学校担当者間で、授業形態やシラバスの確認を行い、また評価項目に関しては、その内容とレベルを協議し確認している。実習・演習等の期間中はどのような指導を学生が受け、どのように向上したのかを企業等の担当者から適宜、具体的な報告を受けている。また、その実効性について企業側と学校側とで具体的な検討ができるよう体制を敷いている。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
インターンシップ	インターンシップ	志望職種に合わせた職業体験をすることで、職業観・勤労観を養う。	ララシャンズ迎賓館、ブライダルスクエアHIYOSHIYA、ウェディングプランナーりぼん、ラ・ヴィータ、リパブリックセカンドストリート
フラワーアレンジメントⅠ	学内授業	フラワーアレンジメントの基礎知識・技術を学び実習にて作品を製作する。企業と連携しより実践的なフラワーアレンジメントの実習を行う。	花工房 四季
フラワーアレンジメントⅡ	学内授業	商業施設・イベント会場等のフラワーアレンジメントの知識・技術を学び実習にて作品を製作する。企業と連携し即戦力になりうるフラワーアレンジメントスキル取得の為の実習を行う。	花工房 四季
Webマーケティング	学内授業	時代に即したSNSを活用し、オンラインショップやウェディングのプランニングなどオリジナル作品を創作。Web上での広告・宣伝方法を学んでいる。	ネクストメディア株式会社
ブライダル実習	学内授業	実際の挙式をプロデュース・実践する。企業と連携し「特別授業」を行う。「ブライダルショー」の企画立案から運営を行い学習成果として発表する。企業と連携し専門業界での即戦力になりうるスキル取得の為の実習を行う。	ひよしや ウェディングプランナーりぼん レ・ブリュ ラ・ヴィータ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修等は本校の教職員研修規程に基づき、計画し実施する。当校が実施する研修は、①新任者研修、②管理職研修、③養成研修に分けて行われており、県内外の各科に関わる業界関係団体や、教育関係団体が主催する研修などに積極的に参加させている。研修等の参加に当たっては、校長又は部門の長が本人のキャリアや適性、意欲等を考慮し、また学校全体の状況等も踏まえ、戦略的に研修を計画している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	高知のウエディングについて現役のプロを招いて現状を理解しウエディング業界を牽引する人材を育成する	連携企業等:	一般財団法人 高知ウエディング協議会
期間:	令和5年4～11月	対象:	ブライダルに携わる者
内容	ウエディングの歴史、トレンド&紙面構成、ウエディング接客技術講習など		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人が育つファシリテーション講座	連携企業等:	一般社団法人REIONE
期間:	令和5年12月25日	対象:	当学園教員
内容	主体的に社会で活躍できる学生を育てるための、ファシリテーションテクニックを習得する。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ブライダル産業フェア2024	連携企業等:	ブライダル産業新聞社
期間:	令和6年5月28・19日	対象:	ブライダルに携わる者
内容	結婚式ユーザーは新しい世代へ変わり、ブライダル業界の世代交代も進む中、変わらない大切なものは。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	相手の参加を引き出すコミュニケーション	連携企業等:	一般社団法人REIONE
期間:	令和6年12月25日	対象:	当学園教員
内容	学生が自身の情報を発しやすい環境の構築と、教員が生徒の状態を把握しやすくする方法に焦点を当て、学生が主体的に授業に参加する手法を学ぶ。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき自己点検評価を行っており、作成した資料を元に学校関係者に意見を聞き、教育活動の改善に努めていく方針である。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	管理運営
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	改革・改善
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学科の学生数に対する教員負担が多いのではないかという意見から、ブライダルの専門分野を経験した教員を新たに採用した。数年後、担任業務を持たせるため、本年度から副担任としてサポート体制を強化している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
加藤 稔	高知県情報産業協会	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	業界関係者
岩郷 雄介	高知県製パン協同組合	令和5年5月1日～令和7年4月30日(2年)	業界関係者
福永 龍雄	パシフィックソフトウェア開発株式会社	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	企業関係者
矢野 太久	矢野平八会計事務所	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	企業関係者
宮本 高憲	株式会社 高南メディカル	令和6年7月1日～令和8年6月30日(2年)	企業関係者
坂本 昌二	高知高等学院	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	教育関係有識者
安井 裕治	南放セーラー広告株式会社	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/disclosures/index.html>

公表時期: 令和6年11月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と密接かつ組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者に対して、学校の教育活動、その他学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2) 各学科等の教育	設置学科
(3) 教職員	教員名簿
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ
(6) 学生の生活支援	募集要項
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/kcc/index.html>

公表時期: 令和6年11月1日

授業科目等の概要

(商業実務関係専門課程セールスマネジメント・ブライダル学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		販売士 I	小売業の仕組みや役割、ストアオペレーションやマーチャライジング、販売・経営管理の基礎知識を学び、3級の検定取得を目指す。	1前	150		○	△		○		○		
2	○		英会話 I	各レッスンで学習するレッスンシーンの説明と、基本の会話の流れを紹介し、その中で入れ替えて使える単語や、フレーズ、発音やアクセントについて触れる。	1通	48		○		△	○			○	
3	○		色彩学	色のはたらきや分類、心理的効果や配色調和などの基礎知識を体系的に学び、色彩検定3級取得を目指す。	1通	72		○	△	△	○			○	
4	○		イラストデザイン	Inkscapeのソフトを使ったPC技術を身に付け、名刺の作成やオリジナルのポスター制作を行う。	1後	33		△			○			○	
5	○		パソコン実習 I	Word2010ソフトの基礎知識と技術を学び、文書作成が出来るようにする。Word検定3級取得を目指す。	1通	69		△			○		○		
6	○		業界研究	志望する業界・企業の検索を行い、職業に就いての理解を深め、就職活動に活用する。	1後	22		△			○		○		
7	○		接客販売技能 I	繊維の基礎知識やお客様との接客用語、販売技能を身につける。贈答の知識や冠婚葬祭等、お客様の要望に適切に応えるための専門的な知識を習得する。	1後	54		△			○		○		
8	○		ブライダル基礎	冠婚葬祭の基礎知識及びブライダル業の専門知識を学ぶ。	1通	166		△			○		○		
9	○		インターンシップ	志望職種に合わせた職業体験をすることで、職業観・勤労観を養う。	1後	105					○			○ ○	
10	○		ビジネス実務 I	就職に向けた意識付け、自己分析、自己PRを考え準備をする。ビジネスシーンに必要な基本マナーを体得する。	1通	77		△			○		○		

11	○		一般常識 I	就職試験を意識した一般常識の基礎力を身に付ける。	1 後	22		△	○		○		○				
12	○		手話 I	聴覚障害者とのコミュニケーションツールである手話の基礎を学ぶ。手話の実習を通して健常者とのコミュニケーションの重要性への気付きを持たせる。企業と連携し最新の手話の技法を実習にて学ぶ。	1 通	50		△		○	○				○	○	
13	○		フ ラ ワ ー ア レ ン ジ メ ン ト I	フラワーアレンジメントの基礎知識・技術を学び実習にて作品を製作する。企業と連携しより実践的なフラワーアレンジメントの実習を行う。	1 通	14		△		○	○				○	○	
14		○	ブ ラ イ ダ ル 実 習	実際の挙式をプロデュース・実践する。企業と連携し「特別授業」を行う。「ブライダルショー」の企画立案から運営を行い学習成果として発表する。企業と連携し専門業界での即戦力になりうるスキル取得の為の実習を行う。	2 通	557		△		○	○				○		○
15		○	販 売 士 Ⅱ	この学習を通じて、商品・仕入・在庫管理や接客マナーに関する知識、マーケティングや人事・労務を含む経営管理手法など、多方面にわたる実践的なビジネスのノウハウを学ぶ。学んだ知識を販売実習で実践する。	2 通	392		○	△	△	○				○		
16		○	簿 記	基礎的な商業簿記の原理・記帳・決算・財務諸表の作成を学習する。	2 前	75		○	△		○					○	
17		○	接 客 販 売 技 能 Ⅱ	ファッションのディティールとフィッティング、クレーム対応まで幅広く、専門的な知識を習得する。	2 通	48		△		○	○				○		
18			英 会 話 Ⅱ	シンプルな基本の会話例を使って、スムーズに言えるようにする。その他、日本語と英語の表現の違いや、文化の違いについても学習する。	2 通	40		△		○	○					○	
19	○		P O P	小売店の店頭プロモーションとして展開されるPOP広告について、お客様の興味を抱かせ購買決定に役立つセリングポイントなどの書き方を学ぶ。		26		△		○	○				○		
20	○		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	パワーポイントを使ったプレゼンの作品製作。分かりやすく、好感を持たれるプレゼンテーションの手法を考え、表現力を身に付ける。	2 前	26		△		○	○				○		

21	○		手話Ⅱ	手話Ⅰで学んだ基礎技術を踏まえより実践的な実習をおこなう。手話を通してコミュニケーション力を養う。企業と連携しより実践的な手話の実習を行う。	2通	40		△		○	○			○	○
22	○		色彩学応用	パーソナルカラー分析の基礎知識を学ぶ。企業と連携しより実践的なパーソナルカラーの実習を行う。	2通	39		△		○	○		○		
23	○		パソコン実習Ⅱ	Excel表計算の基礎知識を学び、3級の検定取得を目指す。企業と連携しより実践的なパソコン操作の実習を行う。	2通	58		△		○	○		○		
24	○		フラワーアレンジメントⅡ	商業施設・イベント会場等のフラワーアレンジメントの知識・技術を学び実習にて作品を製作する。企業と連携し即戦力になりうるフラワーアレンジメントスキル取得の為に目指す。	2通	12		△	△	○	○			○	○
25	○		Webマーケティング	インターネットを道具・手段として使うための基礎を身に付けるとともに、マーケティングの視点と考え方を学ぶ。	2通	58		○		△	○			○	○
26	○		ビジネス実務Ⅱ	社会人を意識したビジネスシーンでの具体的な接遇を体得するとともに、ビジネス能力検定ジョブパス3級の取得を目指す。	2通	58		△	△	○	○		○		
合計						26	科目	2311 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：科目ごとの総合評価が全てC以上		1学年の学期区分	2期
履修方法：必須、選択必須科目を履修すること		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。